

【NEWS RELEASE】

2022年3月31日

各位

株式会社三井住友銀行

石原産業株式会社に対する「ESG/SDGs評価」に基づく
コミットメントライン・シンジケーションを実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、石原産業株式会社（代表取締役社長：高橋 英雄）に対し、「ESG/SDGs評価シンジケーション」における「ESG/SDGs評価」に基づくコミットメントライン・シンジケーションを組成いたしました。

本件は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）と弊行が作成した基準に基づき、石原産業株式会社のESG（※1）側面の取組や情報開示、SDGs（持続可能な開発目標）（※2）達成への貢献を評価し、その趣旨に賛同いただいた金融機関によって組成されるコミットメントライン・シンジケーションとなります。

今回対象となりました石原産業株式会社の取組は、環境側面（E）、社会側面（S）およびガバナンス側面（G）の各項目の中で特に社会側面（S）において高い水準であると判断され、全体では、サステナビリティに向けた企業経営において、良好な取組と情報開示を実施されているとの評価になりました。

特に、ESGおよびSDGs達成に向けた取組では、以下の内容が高く評価されました。

E：自社の事業活動に伴う主な環境負荷として、CO2 排出量や水使用量、廃棄物排出量等の実績値を関係会社も含めて把握していること。

S：ダイバーシティの推進や、働きやすい職場環境づくりに向けて各種制度の導入を進め、有給休暇取得率や女性管理職比率等の実績値についても開示している。また、安全性に優れ、効果の高い農薬等の開発・供給を通じ、世界の食料問題の解決に貢献する姿勢を示していること。

G：ESGの要素を経営や事業戦略に組み込んでいくため、2021年11月に社長室サステナブル推進委員会を新設し、ESGの視点で新たな社会価値を創造するためのマネジメント体制を強化していること。

SDGs：中期経営計画において、「ESG・SDGs視点での経営の取組強化を推進することにより、サステナブルな企業価値創造を目指す」という基本方針を策定し、「統合報告書2021」等で、グループの事業活動とSDGsの関連性を示すとともに、事業戦略によって貢献するSDGsの目標を明示している。

三井住友銀行では、「ESG/SDGs評価シンジケーション」のESG評価を踏まえた情報提供を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。

<ご参考>

※1 ESGとは

ESGとは環境（Environmental）、社会（Social）、企業統治（Corporate Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以上

このニュースリリースは、投資や勧誘を推奨することを目的としたものではありません。